令和８年度　一般国道 158 号（松本波田道路改築）工事に伴う発掘調査

安塚古墳群（やすづかこふんぐん）　現地説明会（げんちせつめいかい）　資料（しりょう）

令和８(2026)年 10 月 10 日(土)

（一財）長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター



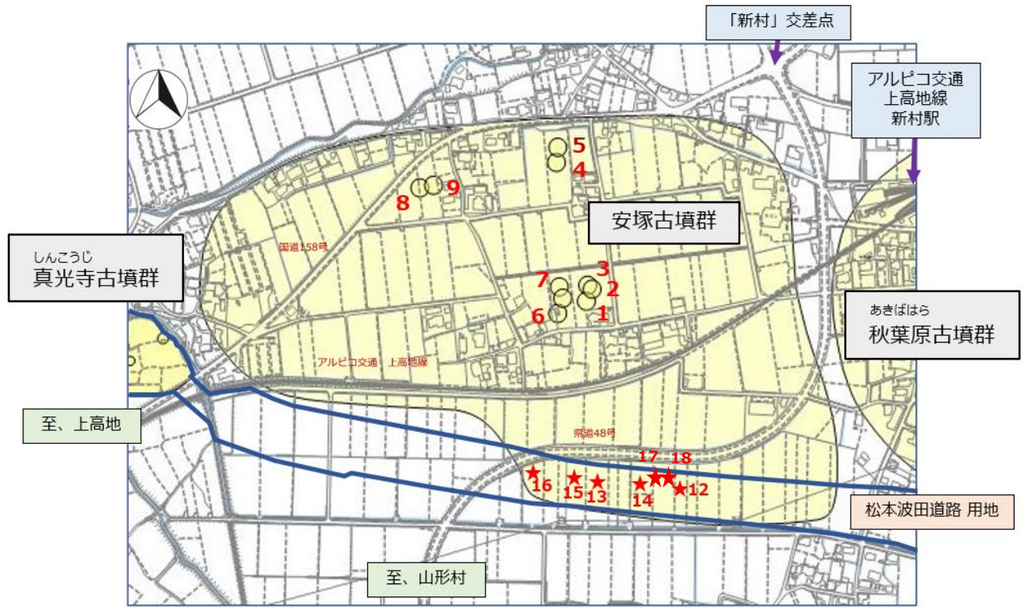
安塚古墳群　調査区遠景（西から撮影）

■ 安塚古墳群とは

安塚古墳群は、松本市新村（にいむら）・和田（わだ）地区に立地する古墳群です。松本盆地西部の梓川右岸、山形村（やまがたむら）から流れる唐沢川（からさわがわ）がつくった扇状地（せんじょうち）の扇端に位置します。いずれの古墳も、出土した土器から、７世紀後半～８世紀代に築造されたと考えられています。

安塚古墳群一帯では、江戸時代以降に水田などの開墾（かいこん）が進み、墳丘（ふんきゅう）などが削られたと考えられています。昭和 48（1973）年、圃場整備工事（ほじょうせいびこうじ）に立ち会った新村歴史研究会の会員が１～３号墳を発見し、昭和 53（1978）年には松本市教育委員会が４～９号墳を調査しました。松本波田道路の事業用地内では、令和３(2021)年度の試掘調査（しくつちょうさ）で新たな古墳がみつかり、従来知られていた範囲より南側にも古墳群が広がることが分かり、安塚古墳群の遺跡範囲が広がりました。現在までに、道路用地内では 12～15 号墳と 17・18 号墳が確認されています。

なお、新村・和田地区ではほかに、秋葉原古墳群（あきばはらこふんぐん）の５基、隣接する波田（はた）地区では真光寺古墳群（しんこうじこふんぐん）の２基が、安塚古墳群とおおむね同じ時期の終末期古墳として、似た特徴をもつ石室が確認されています。

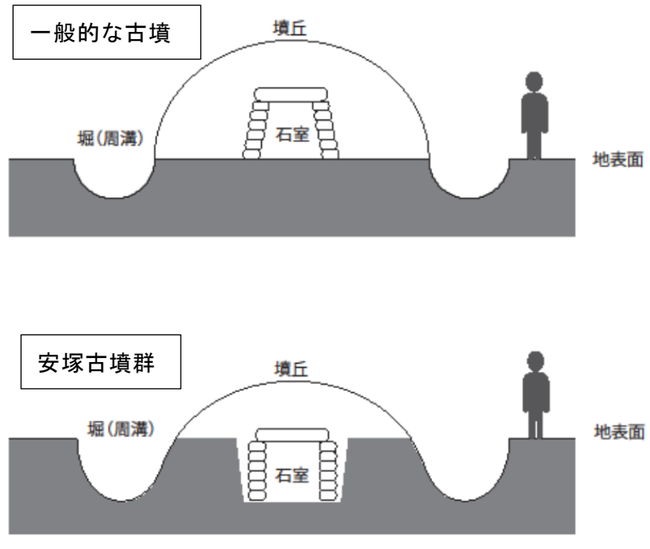


安塚古墳群の遺跡範囲（黄色塗り）（松本市　文化財課からの提供図に加筆。赤色数字：古墳の番号）
※図中の★16 は調査の結果、古墳ではなく中世の礎石建物跡と判明

■ これまでの調査成果

これまでの調査から、当地の古墳は、石室が半地下（はんちか）または地下式（ちかしき）に造られ、奥壁（おくへき）や側壁（そくへき）には梓川（あずさがわ）の河原石とみられる石が使われていることが分かっています。一方、後世の削平によって古墳の上部が失われた例が多く、石室に天井石（てんじょうせき）があったのか、墳丘がどのくらいの高さまで築かれていたのか、あるいは墳丘をもたない古墳もあったのかなど、現在も不明な点が残っています。

今年度の調査では、12・14・17 号古墳で周溝（しゅうこう）、18 号古墳で墳丘と周溝が確認されました。墳丘は石室の上に築いた盛り土、周溝はその周囲に掘られた溝です。石室（せきしつ）に加え、今年度みつかった墳丘や周溝も詳しく調べながら、古墳全体がどのようにつくられたのか、引き続き検討していきます。



長野県埋蔵文化財センター『掘るしん 2025』配布資料（直井 2025）に一部加筆

第 17 号古墳

古墳群のなかでも
比較的大きな石室
だよ！



かがみちゃん



検出状況（けんしゅつじょうきょう）



石室の調査状況

第 12・14 号古墳｜遺物出土状況



12 号古墳 坏（つき）・坏蓋（つきぶた）



12 号古墳 瑞（はそう）



14 号古墳 コップ形の須恵器（すえき）



用地内遺跡範囲と古墳発見地点（——：道路建設範囲 ┅┅：遺跡範囲 ★：古墳発見地点）

第 18 号古墳

墳丘と周溝を手がかりに、古墳の姿を探ろう！



まいぶん博士



検出状況（けんしゅつじょうきょう）



石室の調査状況

長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4
電話：026-293-5926
メール：maibun@naganobunka.or.jp
HP：https://naganomaibun.or.jp
調査担当：水科・小山・市川
支援業務：㈱アコード：星・菅原・田邉・門田